

## こどもたちにとってよりよい教育環境となる学級・学校規模について 【グループ協議】

### 「魅力ある学校づくり基本方針」より抜粋（P22）

児童生徒は、学校という環境において、様々な考えに触れ、認め合い、協力し合い、高め合うなど、多様な人間関係の中で、人と関わりながら学び、その学びを通して、社会性を育んでいきます。そのため、学校においては、一定の集団規模が確保されていることが望ましいと考えます。

本日のグループ協議は、「一定の集団規模」について掘り下げたいと思います。

学校という集団で学ぶよさや意義、「魅力ある学校像」のイメージの具体化から導き出したキーワード等を踏まえ、小学校、中学校ともにこどもたちにとってよりよい教育環境となる学級・学校規模として1クラスあたりどのくらいの人数が、1学年あたりどのくらいのクラス数が望ましいと思うか。また、そう思う理由について、グループで話し合ってみましょう。

### ーグループ協議に当たってのポイントー

現在、本市に22校ある市立小学校の半数は、全ての学年が1クラスの単学級であり、そうした学校は今後、さらに増加する見込みです。

単学級の状況としては、1クラスの児童数が5人にも満たない学校から、学級編制の基準の上限35人の学校まで様々です。

学級規模・学校規模が小さい場合のメリット、デメリットは、以下のようなものが考えられます。こうした点も踏まえグループ内で話し合ってみてください。

#### 学級規模が小さい場合のメリット

- きめ細かな指導がしやすくなる
- 様々な活動のリーダーを務める機会が増える
- 発言の機会を多く確保できるようになる

#### 学級規模が小さい場合のデメリット

- 運動会、文化祭、遠足、修学旅行等の集団活動・行事の教育効果が下がる
- クラス内で男女比の偏りが生じやすい
- 体育の競技や音楽の合唱・合奏のような集団学習の実施に制約が生じる
- 班活動やグループ分けに制約が生じる
- 協働的な学習で取り上げる課題に制約が生じる
- 教科等が得意なこどもの考えにクラス全体が引っ張られがちとなる
- 児童生徒から多様な発言が引き出しにくく、授業展開に制約が生じる
- 教員と児童生徒との心理的な距離が近くなりすぎる

#### 学校規模が小さい場合のメリット

- 学校全体が「顔の見える関係」で繋がることにより、上級生が下級生を自然に支えるといった温かな人間関係が育まれやすい
- 「地域全体でこどもを見守り、育てる」という体制が築かれ、地域に密着した教育環境が実現しやすい

#### 学校規模が小さい場合のデメリット

- クラス替えが全部又は一部の学年でできない
- クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない
- クラブ活動や部活動の種類が限定される

**【手順1】アイスブレイク（5分）**

- ・グループ協議に入る前に、場の雰囲気や和ませるという意味で、まずは年末年始どのように過ごされたのか、グループ内で発表し合ひましょう。

**【手順2】自分の考えを整理（5分）**

- ・小学校、中学校ともに、1クラスあたりどのくらい的人数が、1学年あたりどのくらいのクラス数が望ましいと思うか。そう思う理由について、自分の考えを整理しましょう。

小学校	中学校

**【手順3】グループ内でそれぞれの考えを発表（10分）**

	小学校	中学校
委員		

**【手順4】グループ内の意見のまとめ（10分）**

- ・【グループ協議のまとめ】シートを用いて、グループ内の意見をまとめましょう。

**【手順5】グループごとに発表（各3分）**